



Toiro project

TOTal Instruction program Re-Organizing multiple subjects

僕たちのアイデアを地域と形にする



授業での学びと連動させ、**地域と積極的に関わりながらコトづくりやモノづくり**を展開し、**地域の付加価値向上、および人間力と実践的な総合化技術の向上**を目指すプロジェクト

Toiroとは、**BIM**による制作活動を主な活動内容として運営を行う組織である。
BIMとはPCデータ上に三次元モデルを作成し、設計や製作に応用していくことのできる技術の概念である。建築系プロジェクトのハイレベルな課外活動を行う事によって、**地域の活性化**を進め、その活動の中から学生たちの意識を高め、大学が重視する**デザイン・知識**に加え**人間力**を身に付ける事で社会の中で**リーダーシップ**を取れる建築学生を育てることを目標とする。具体的には、**交渉力、責任感、技術、運営方法**の習得を目指す。
さらにBIMなど、建築系の様々な分野を融合し、その中から生まれる、従来ではなかった建築の**デザイン**や物作り、**地域活性化**に関する新しい試みを行っていく事を目的としている。

家具作り

Toiroに入って**初めて取り組む活動**。
昨年度は、「机」、「棚」、「ゴミ箱」も三つを作成した。各班に分かれてのアイデア出しからスタート。班ごとにプレゼンテーションを行うことで、**Power pointのレイアウトの仕方、人によく伝える方法、つまり、プレゼン能力を向上させるきっかけ**ともなる。
さらに**スケッチアップでの3Dモデル**を作成する方法を学ぶ。大学院生の先輩などにアドバイスをいただき、約2か月で施工までを行った。
一年生は家具作りを通して、ものづくりの流れを学び、Toiroでの活動をスタートさせていった。
この活動は**一年生と先輩との交流が生まれる場**にもなっている。



カメラまつり

カメラまつりなアイデア出しが6月からスタート。
最初の1カ月は、個人でアイデアを考えていき、3年生のアドバイスを受けながら1つのアイデアをつめていった。このように**個人コンペ**を行うことで**個々の能力向上**へとつながる。
7月からは4つのグループに分かれて、コンセプト・オブジェデザインについて約1か月間考えた。再度プレゼンを行い、1つの案に絞り込み、**詳細設計**へとつながった。詳細設計では実際に現実にするため要素を盛り込んでいき、施工図面や部材表、予算などを見積もる。
8月、9月にはオブジェの製作を開始。
施工期間が短かったため、ほぼ毎日集まり、協力しながら施工を行った。さらに仮組みや試験点灯を行い、当日に備えた。
9月27日情報交流館カメラアール全館・あらかみや公園・市役所中庭を舞台に5回目となるカメラまつりが開催され、**約800人が来場**した。
午前中、ホール棟では第4回子どもセンターチャレンジ教室を開催した。17時よりカメラまつりが始まり、多くの子どもたちが**秘密基地**で走り回ったり、**わたっこライト**で遊んでいた。
Toiroの1年間の活動の中で**最も長い期間のプロジェクト**であったため、今までにない**達成感**を得ることができた。

ナニカツ

ナニカツとは、部員が建築に関わる関わらない問わず、**様々な分野の企画提案**を行うことである。その活動は幅広く、遊びから**外部との連携企画**などが行われている。
昨年度は、建築巡りや**戸田研究室の本棚作り**などを行い、今年度も多くの活動を行う予定である。また、大きなイベントとして、夏季休業を利用した2泊3日の**設計合宿**も行った。様々な活動を通して、**個人の見解や、建築的知識を深める事**につながった。

